



“思い”を引き継ぐ～門扉「群像」清掃～

本館校舎は、平成 8 年（1996 年）1 月に竣工したので 30 年近く経ちます。しかし、時の流れを感じさせない外観で、来校される方々も口々に「りっぱな校舎ですね」と言われます。

そんな校舎を一段と引き立てているのが、屋上に設置されている“天文観測室”とともに、本校のシンボルとなっている正門の“門扉”です。ステンレス製の門扉は、本館竣工と同時に同窓会より寄贈されたものです。

製作者は、本校の卒業生で、世界的な建築家として有名な元東京芸術大学教授の北川原 温（あつし）氏です。この門の形は、飯田地方の自然形質を決定している代表的な要素－南アルプスや天竜川－が投影された人間性や地域の伝統文化をモチーフとしており、ステンレス製の部材が、生徒が歩く姿に見えることから「群像」と呼ばれています。



滅多に閉門しませんが..



まずは先輩からの話を聞いて



心を込めて隅々まで

これまで長年にわたり、同窓会の方々が維持管理のための作業を担っていましたが、昨年度から生徒会役員も一緒に協力して行うようになりました。今年度は、10 月 12 日に、生徒自治会長の中島君をはじめとする役員有志が同窓会の方々と共に清掃作業を行いました。毎日この門扉の前を何気なく通り過ぎていましたが、作業をしながら同窓会の方々からの話を聞くにつけ、本校にとって貴重でかけがえのないものであるがわかったようです。また、同窓会の方々もこの作業を通じて、現役生と交流を深めることができた大変喜ばれていました。先輩の思いを後輩もしっかりと受け継いでくれたようです。



心を込めて磨く、磨く



陽の光に反射して輝く“群像”